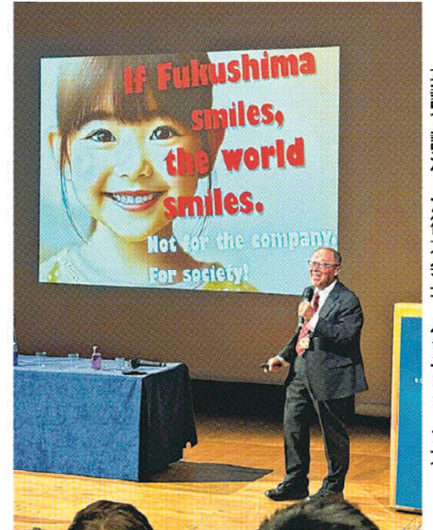


英語講演「熱意伝わった」

アポロガス篠木会長

英ケンブリッジ大で



英語で講演した篠木会長「ケンブリッジ大」

日本の高校生が英国の大学で学ぶプロジェクトに協力しているアポロガス会長の篠木雄司さん(62)「福島市」は現地時間7月29日、英ケンブリッジ大で講演した。

「還暦チャレンジ」として初めて英語での講演に挑戦した篠木さんは「久々の英語に苦戦したが、熱意は伝わった」と振り返る。

プロジェクトは、高校生が夏休みに約2週間英国に渡り、現地の高校生と一緒に学ぶユニバーシティ・カレッジ・ロンドン(UC L)ジャパンユースチャレンジ。東日本大震災後、「日本の将来を担う人材を育てよう」とUC Lの大沼信一教授(福島高出身)を中心に始まった。

篠木さんと大沼教授は福島高時代の同級生で、大沼教授の講演会を篠木さんがたまたま聴講したことをきっかけに、縁が深まった。篠木さんは、プロジェクトに参加している高校生や現地の高校生、同大の研究員らを前に講演した。コップは逆さまだと水が入らないことを示し、素直に受け入れる気持ちの大切さなどを訴えた。聴講者からは「思わず涙がこぼれた」などの評価をもらった。

篠木さんは「還暦を過ぎても挑戦できる姿を見せたかった。笑顔を引き出し、一歩踏み出す勇氣や縁の大切さを伝えられた」と話している。

▲ 8月8日 福島民友新聞掲載

講演会はどこで、誰に対して、何語で行われましたか。

篠木会長は講演会の後、何を思いましたか。

英語で講演した篠木会長の姿から、どんなことを考えましたか。